

## ■心理検査について（その1）

今回は、心理検査の概要についてお知らせします。

心理検査は、児童生徒理解のための有効な手段です。

### 個別心理検査の概要について

- 1 心理検査を利用する際の心構えについて
  - 子ども一人一人の実態把握のために（特性を理解するために）利用します。
  - I Qを出すことよりも、子どものよさをとらえた指導に生かすために利用します。
  - ※ 適正就学のみを使うのは得策とは言えません。
- 2 心理検査を活用するに当たって
  - **普段のかかわりからの実態把握が大切です。**心理検査はそれを補うものです。
  - **検査の結果は絶対ではありません。**
  - テストバッテリーを組んで利用する。
    - ※ テストバッテリーとは  
2種以上の検査結果を組み合わせて検査を実施し、信頼性を高めること。
  - 偏差I Qと比例I Qについて
    - ※ 検査によって基準が異なることに注意！  
(K-ABC、WISC-IIIでは69以下、田中ビネーでは75以下において、軽度の知的発達の遅れが疑われます。)
- 3 心理検査の種類と活用について
  - 個別心理検査として、一般的に使われるものには次のようなものがあります。
    - ・ 就学前・学齢期・K-ABC認知処理能力検査
    - ・ 学齢期・WISC-III知能診断検査
  - 簡易検査としては次のようなものもあります。
    - ・ 就学前・学齢期・S-M社会生活能力検査
    - ・ 就学前・学齢期・グットイナフ人物画検査（DAM）



### 個別心理検査について

- 主に福島県で使われている心理検査は、K-ABCとWISC-IIIです。どちらもプロフィール分析を行うことができます。以下にその特徴を述べます。
  - ・ **K-ABC**・・・対象 2才6ヶ月～12才11ヶ月  
継次処理、同時処理、認知処理過程、習得度尺度が求められます。
  - ・ **WISC-III**・・・対象 5才0ヶ月～16才11ヶ月  
言語性I Q、動作性I Q、全I Qが求められます。また、群指数（言語理解、知覚統合、注意記憶、処理速度）も求められます。

※ 次号では、心理検査のプロフィール分析についてお知らせします。